SANDEN
Delivering Excellence

CSR REPORT 2020

Responsibly Creating Shared Value

サンデングループ

トップメッセージ

人の生活を豊かにする快適な空間の実現のため時代を切り拓き、全ての人々から信頼される企業へと変革を続けます

サンデンホールディングス株式会社
代表取締役　社長執行役員
西 勝也

はじめに

新型コロナウイルス感染拡大による影響が世界各地に広がっています。感染症に罹患された皆様、不自由な暮らしを強いられている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、過去に例を見ない災禍の最前線で、困難に立ち向かっている医療関係者の皆様をはじめ、各国政府および自治体等の皆様には深く敬意を表し感謝申し上げます。

創業の精神に基づくサステナブル経営

当社は、1943年の創業当時から、創業の精神である「知を以て開き　和を以て豊に」を基本理念として、挑戦と改革の企業文化を醸成し続け、グローバルに事業を展開してまいりました。常に時代のニーズを先取りしながら、新技術により、世界初・業界初の様々な製品を開発し、次々に市場を拡大しております。また、企業理念の実践として、人・環境を重要なCSR重点課題（マテリアリティ）と特定することで、様々な社会課題を事業を通じて解決し、サステナブルな成長を遂げるESG経営の礎ともなりました。

企業理念体系

企業理念体系は、サンデンがグローバル・エクセレント・カンパニーズとして果たすべき企業および社員の行動の原点を体系化したものです。

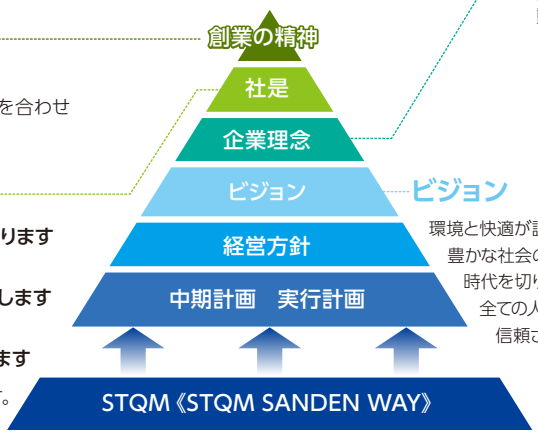
創業の精神

知を以て開き 和を以て豊に
知力により開発・開拓し、みんなの力を合わせ繁栄しようという意味です。

社是

一、顧客のためになるよい製品を作ります
一、仕事を通じて社会福祉と文化の向上に寄与します
一、自己啓発につとめ誇り高き会社の建設に努力します

会社創業以来の社員の行動基軸です。



ビジョン

環境と快適が調和する豊かな社会の実現のために、時代を切り拓き続け、全ての人々から信頼される企業になる

企業理念

G-SDC（サンデングループ）は国の内外を問わず法令、国際ルールを順守し、次の10原則に従い行動します。

基本原則 国際社会の中で共感する普遍の価値観	1. 良き企業市民、社会との調和
	2. 人権尊重
	3. 環境
	4. 企業倫理
	5. 安全衛生
ステークホルダーに対する基本姿勢	6. お客様
	7. 社員
	8. 株主・投資家
	9. 地域社会
	10. 取引先

サンデンの使命—SDGsの掲げる豊かな社会の実現に向けて

当社は、SDGsの目指すゴールである2030年の社会のありようを見据え、「環境と快適が調和する豊かな社会の実現のために、時代を切り拓き続け、全ての人々から信頼される企業になる」をビジョンに掲げ、人の生活を豊かにする快適な空間を実現することを自分たちの使命だと考えております。

2019年4月に中期経営計画「SCOPE2023」を策定し、「構造改革の実行」と、他社との積極的な「協創」による成長を図るべく、改革プランを推進しております。事業戦略とESGの取り組みを結びつけることで、当社と社会の双方の成長を実現していくことを目指し、重点項目に「事業を通じたSDGs達成への貢献」を組み込み、重点分野として「良質な商品の提供と顧客満足度の向上」「地球環境の保全」「労働安全衛生の確保」「多様な人財の確保と育成」「コンプライアンス」の5つを抽出しました。これらは環境の配慮、社会貢献、ガバナンスの強化といったESGに関する課題に対応し、持続可能な社会の実現につながる企業活動を通じて、企業価値の向上とともに、持続的な成長へ着実に成果を積み上げてまいります。

皆様とともに—オペレーショナル・エクセレンス

当社には、品質を第一にモノづくりに愚直に取り組み続けてきた「現場力」があります。社員一人ひとりが常に問題意識を持ち、同じ志を持った仲間とともに、チーム全体で問題解決に取り組む組織、それが当社の目指す「オペレーショナル・エクセレンス」です。このような組織を作り、人財を育てることに全力で取り組んでいきます。

当社グループは、多くのステークホルダーの皆様の期待に応え、SDGs達成の貢献にもつながる「人の生活を豊かにする快適な空間を実現する」という使命を果たすべく、社員一同、一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

CONTENTS

トップメッセージ／企業理念体系	1
At a Glance	2
サンデンのCSR活動	3
サンデンのSDGsへの貢献	4
サンデンと環境	6
サンデンとお客様	10
サンデンとお取引先様	11
サンデンと株主・投資家	11
サンデンと社員	12
サンデンと地域社会	14
社会活動の目標と実績	15
コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス	16
第三者意見	17

編集方針

サンデングループは、ステークホルダーの皆様とのかかわりや事業内容を分かりやすくお伝えするため、2005年から「サンデンCSR報告書」を毎年発行しています。

本冊子は企業理念と経営方針に基づく基本的な考え方・取り組みを掲載したダイジェスト版です。Webにはより詳細なデータや最新の活動に関する情報を公開しています。

■ 対象期間　2019年4月1日～2020年3月31日

活動や取り組み内容は2020年4月以降につきましても、できるだけ最新の動向をお伝えしています。

■ 対象範囲

本報告書は当社グループ（サンデンホールディングス株式会社と連結子会社および関連会社）を報告対象としていますが、一部の項目については個別に対象範囲を明記しています。

■ 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2020」を参考にしています。

At a Glance

事業展開

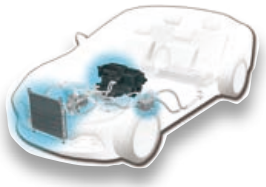
セグメント別売上高構成比（2019年度）

自動車機器事業

75.1%

153,776百万円

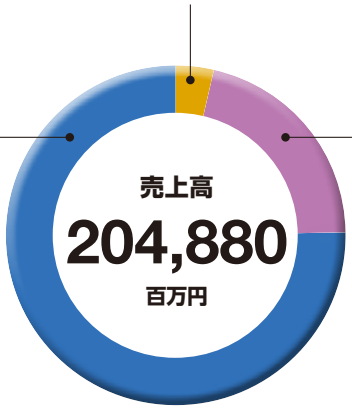
地球と人にやさしい次世代の空調システムを追求しています。サンデングループのカーエアコンシステム製品は、自動車の電動化ニーズにもいち早く対応し、世界中の自動車メーカーや建機・農機メーカーに採用されています。



その他事業

3.8%

7,829百万円

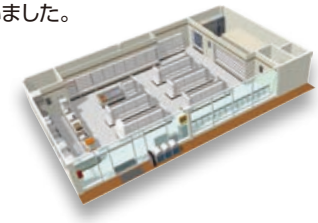


流通システム事業

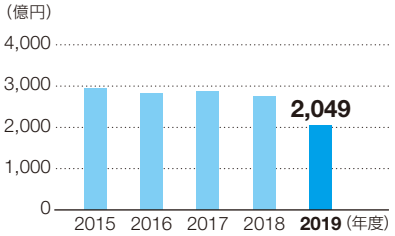
21.1%

43,275百万円

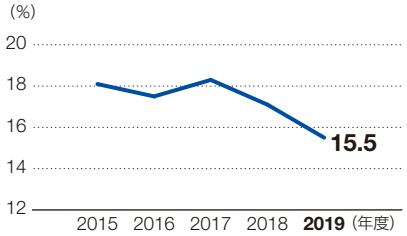
店舗システムとベンディングシステムの分野を中心に、製品、システム、サービスをグローバルに提供していましたが、インテグラル株式会社が運営するSDRSホールディングス株式会社に2019年10月1日付で譲渡を行いました。



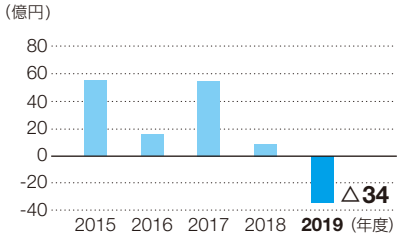
売上高



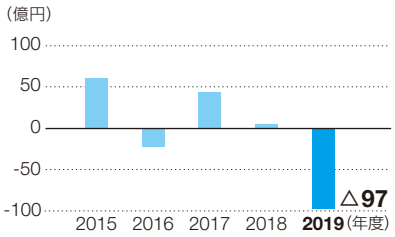
売上総利益率



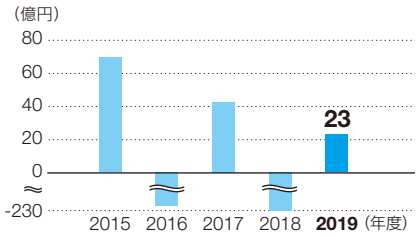
営業利益



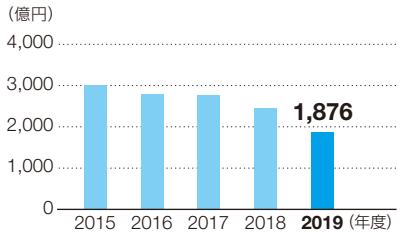
経常利益



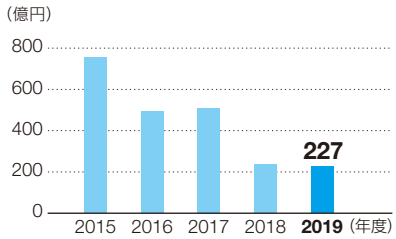
親会社株主に帰属する当期純利益



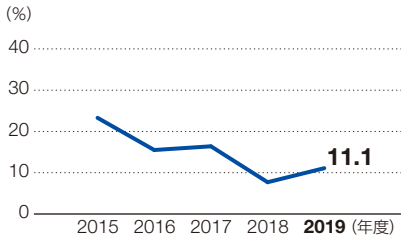
総資産



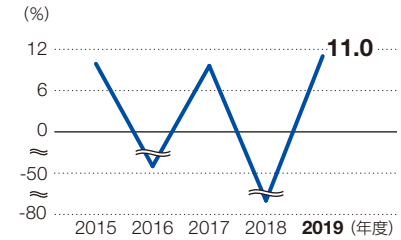
純資産



自己資本比率



ROE



サンデンのCSR活動

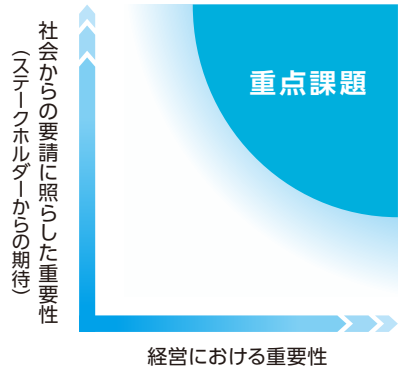
基本的な考え方

サンデングループの企業理念は、関係するステークホルダーに対しての基本姿勢を示しています。これはビジネスとしての「魅力ある製品・システム・サービスをお客様に提供する」ための行動から、「社会から信頼されるための様々な社会的責任を果たす行動」まで、多岐にわたっています。

「CSR＝企業理念の実践」と位置付け、社員一人ひとりが行動することは、昨今高まっている企業のサステナビリティに対する取り組みへの期待に応えるものであり、まさに私たちのCSR活動そのものといえます。

また、新型コロナウイルス感染拡大への対応と共生につきましても、私たちを取り巻く新たな社会課題と捉え、グループの社員やその家族、お客様やお取引先様、地域社会に対するCSR活動のひとつとして、感染リスク低減に取り組んでいます。

マテリアリティマップ



E 環境での重点課題
- 環境技術開発の推進
- 製品リサイクルの推進
- 環境負荷低減への対応
- 気候変動問題への対応

S 社会での重点課題
- ダイバーシティの推進
- ワークライフバランスへの取り組み
- 人財育成

G 企業統治での重点課題
- コンプライアンスの浸透・徹底

ステークホルダーとのかかわり

当社グループは、お客様、社員、株主など、多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にし、より深めたいと考えています。お客様とは日ごろから展示会や工場案内などを通じて交流を深め、お取引先様とは方針説明会やCSRヒアリングを通じた直接対話を行っています。また、株主の方には適時適切な情報開示とともに、アンケートなどを行い、皆様から貴重なご意見をいただいています。これからも対話を通じたステークホルダーの満足度向上に努めます。

各ステークホルダーとのエンゲージメント

環境
- 事業活動における環境負荷低減
- 新規開発機種で製品環境指標の改善達成
- 製品使用時の負荷を低減する技術開発
- サンデンフォレストにおける生物多様性活動

お客様
- お客様サービスセンター
- 各種展示会
- ステークホルダーダイアログ

お取引先様
- 方針説明会
- CSRヒアリング

株主・投資家
- 株主総会
- 各種説明会
- 株主アンケート

社員
- 各種職場ミーティング
- 意識調査アンケート
- イントラネット・グループ報
- 内部通報制度（社内・社外窓口）

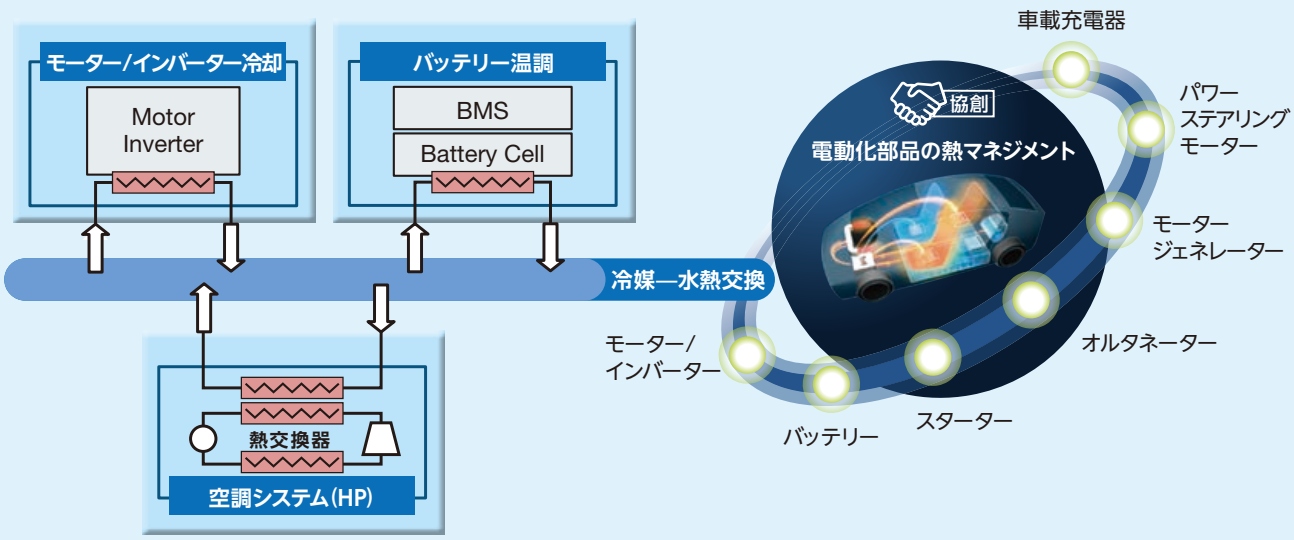
地域社会
- 講演・研修依頼、教育現場などへの講師派遣
- NPO・市民団体への活動支援、各種ボランティア活動
- 工場見学
- NPOとの意見交換会

サンデンのSDGsへの貢献

人の生活を豊かにする快適な空間の実現

サンデングループは、中期経営計画SCOPE 2023における目指すべき姿として、2030年の社会で「人の生活を豊かにする快適な空間の実現」を描いています。また、「事業を通じたSDGs達成への貢献」を重点項目のひとつとして組み込んでいます。SDGsへの取り組みは、グローバル社会からの要請を受け止め、社会に貢献することを使命としている当社グループにとって必要不可欠と考えています。

EV「統合熱マネジメントシステム」領域に注力



統合熱マネジメントシステム開発プロジェクト
Thermal Management System Development Project

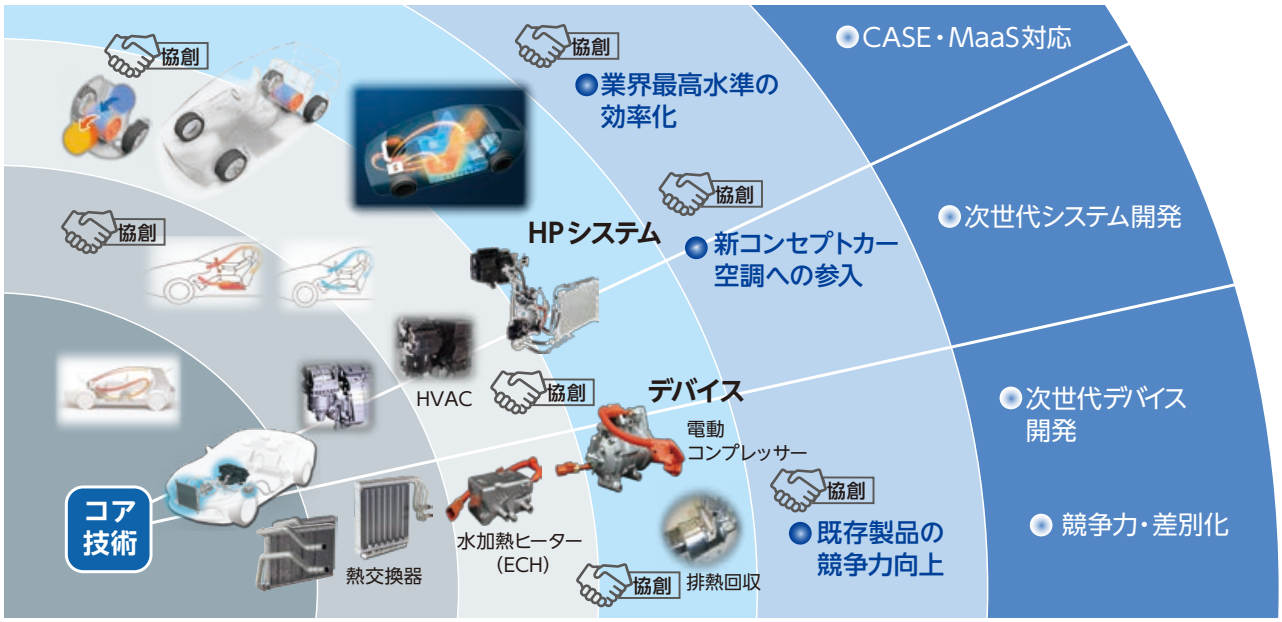
業界最高水準の効率化を実現

- モーター/インバーターの排熱回収によるエネルギー有効活用
- 最適な冷却/加温によるバッテリー性能の向上
- 高効率ヒートポンプと小型軽量水加熱ヒーター
- 空調その他冷熱機器全体の最適な熱制御と快適性の提供

CO_2の排出量削減は地球規模の課題です。そのためには地球規模で電気自動車(以下、EV)の普及・拡大を図ることが重要です。しかし、電気自動車はエネルギー効率が課題となっています。統合熱マネジメントシステムにより、車両で発生・回収した熱や冷気を緻密に制御し、業界最高水準の効率で航続距離を延ばすことが可能になります。サンデングループは統合熱マネジメントシステムに注力し、世の中の課題解決に貢献します。

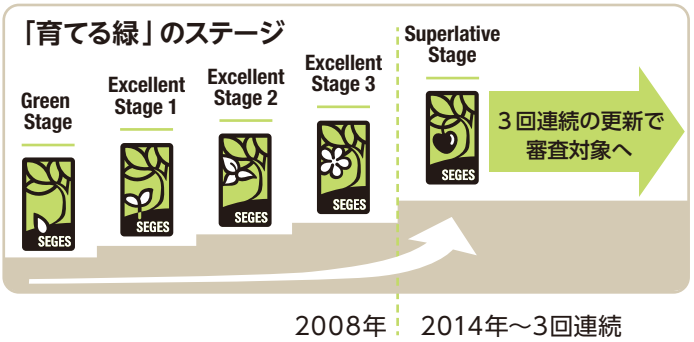
積極的な「協創」による技術開発と社会貢献

「統合熱マネジメントシステム」領域　【2019年度実績】▶将来に向けての協創を検討中



コンプレッサーや熱交換器に代表されるデバイス、デバイスの組み合わせによるエアコンシステムやヒートポンプシステム、これらのシステムを高度化した次世代システム開発、新たな価値を生み出すCASE、MaaS対応の3つの領域が、当社の成長を支えます。これらの全てを最適に制御することにより、現在課題となっているEVの航続距離を延ばし、環境にやさしい技術の開発を通じて、社会に貢献していきます。

「環境と産業の矛盾なき共存」によるSDGs達成への貢献



サンデンフォレストは2002年の竣工以降、「環境と産業の矛盾なき共存」の理念のもと、2008年にSEGES Excellent Stage 3を取得。以降、継続した活動を進め、2020年には最高評価ランクである「緑の殿堂」に認定されました。サンデンフォレストの理念はESG経営そのものであるとの評価をいただいています。

サンデンと環境

基本的な考え方

サンデングループは「環境と快適の調和する豊かな社会の実現」を目指す姿と位置づけ、グローバルサプライチェーン全体で環境負荷の低減に努め、持続可能な社会づくりに貢献します。

Green Management

サンデングループは「環境と快適の調和」を最重要課題に据えて、その実現をグループ全体で推進しています。それを牽引すべく、重点施策は製造拠点を中心にしたISO14001による環境マネジメントの実践、社員の環境マインド醸成、および地域社会への貢献を推進しています。

基盤となるISO14001は2015年度版への移行を終え、2020年度を最終年度とする「第4次中期環境基本方針」の達成に向けた環境活動への転換を図っています。

この基本計画では、以前から進めてきた自社グループが環境に与える負荷を低減する環境保全活動はもとより、活動範囲をサプライチェーンに広げ、環境負荷低減活動、製品含有化学物質の管理を進めるとともに、SDGsで挙げられた社会課題を解決する技術開発・製品開発へ挑戦することを目標とし、グループ全体への展開を行いました。サンデングループ環境マネジメントの各サプライチェーンにおける管理ポイントは下図の通りです。この施策をPDCA展開することにより、さらなる効果を実現しています。

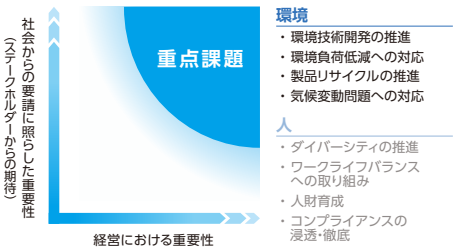
社員の「環境マインドの醸成」については、国内社員を中心にeco検定（環境社会検定試験）の受検を推奨しており、「通信教育プログラム」に掲載して支援をしています。eco検定合格者は累計で2,470名になりました。また、新入社員教育においては、製造拠点＝サンデンフォレストにおいてのフィールドワークも定例化しており、自然環境保護の大切さを体験させています。

2002年に「環境と産業の矛盾なき共存」をコンセプトに造成したサンデンフォレスト（工場：32ha、自然環境：32ha）は、近自然工法の採用や継続した管理の結果、造成前以上の豊かな自然状態を回復しています。環境省の「モニタリングサイト1000里地調査」の一般サイト（調査地）にも登録されました。その状態をさらに向上するために、「アレチウリ」などの特定外来種植物の除去のほか、約360本の間伐を行いました。それら一連の活動は、公益財団法人都市緑化機構が実施する「SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)」より「緑の殿堂」に認定されました。

《サンデングループ　環境マネジメント一覧》

マネジメント→		製品対策	温暖化対策	資源循環	環境リスク	コミュニケーション	生物多様性
バリューチェーン↓	開発・設計	環境配慮製品 創出	省エネ設計 グリーンラボラトリー	軽量化 リサイクル設計	冷媒規制対応 化学物質規制		
	資材調達				グリーン調達	サプライヤー表彰 サプライヤー監査	BD配慮調達 サプライヤー要求
	生産	環境 設備更新	GHG削減 工程改善 生産性改善	歩留まり改善 MFCA	有害化学物質 削減・代替 PRTR削減		
	物流	荷姿改善	モーダルシフト 輸送効率向上 梱包材MIN化	梱包材削減	荷主責任順守		
	販売・サービス	環境性能表示 （見える化）	グリーン販売	梱包材削減 Rサービス提供		顧客説明	
	使用	環境性能表示 （見える化）	冷媒機器管理	メンテサービス		環境性能表示 （見える化）	
	回収・廃棄			製品リサイクル 部品リサイクル 3R事業展開	冷媒回収		
マネジメント		製品環境 認定制度	グリーンIT グリーンオフィス SBT認定		法令順守	情報発信	ガイドライン制定 ネットワーク構築 生態系調査

マテリアリティマップ

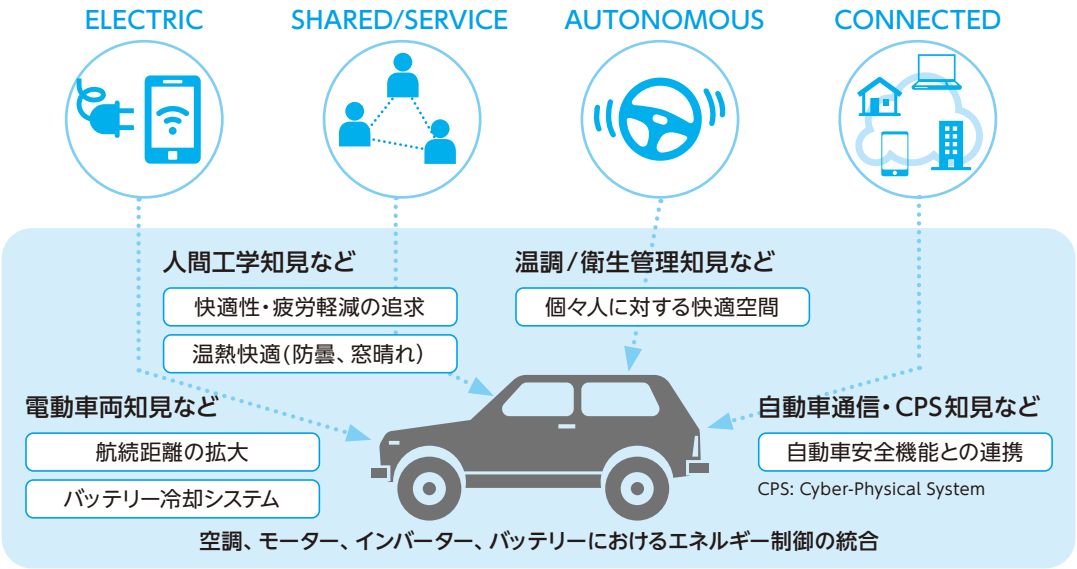


Green Technology

世界中の人々およびお客様の環境指向ニーズを的確に捉え、環境と快適が調和する豊かな社会の実現に向け、「冷やす・あたためる」のコア技術に「省エネ技術」を盛り込んだ「環境貢献新商品」を生み出す最先端の技術開発、商品開発を進めています。

自動車機器事業は、業界を巡る新しい4つの技術・潮流を示す「CASE」（Connected=つながる車、Autonomous=自動運転、Shared/Service=シェア/サービス化、Electric=電動化）という「100年に1度の変革期」にあり、この先の社会に与える影響は膨大なものになるといわれています。また、自動車メーカーの競争環境・構造も一変するとされており、それに伴いサプライヤーも大きく変化すると予測されます。当社はこの状況をチャンスと捉え、「自動車空調システム」開発に積極的に挑んでいます。

CASEと空調システム



2019年4月に群馬大学全学部とサンデングループの包括契約を締結しました。現在、「CASE」に対応すべく「電動コンプレッサーの性能向上のための制御技術」をテーマとして進めています。

TOPICS 第99回大会への参戦へ向けて活動を継続

2020年度レース用だった車両

サンデン・アドバンストテクノロジー株式会社は、昨年に続き、2020年8月にアメリカ・コロラド州にて開催される「2020年第98回パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム」に参戦するチーム「SAMURAI SPEED」に協賛し、レース出場に向けて最新水冷式バッテリー温度管理システムの開発、車両に搭載した上での実走試験を順調に進めていましたが、新型コロナウイルスに対する全関係者の健康安全の確保が非常に困難であるため、本年度の参戦を見送ることになりました。

パイクスピークEVチャレンジへの主な目的は、EVの統合的な熱マネジメントシステムの開発に向けたデータ測定・収集およびシステム検証です。本活動によって熟成される「統合熱マネジメントシステム」の早期量産化に向けて商品開発を加速させ、今後もさらなる成長を目指します。

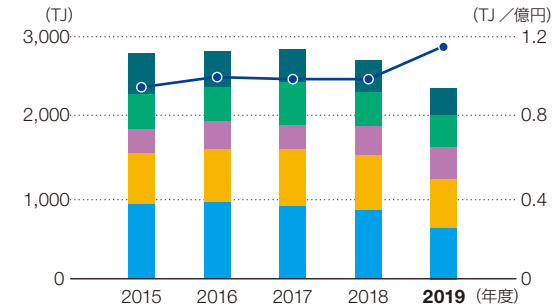
Green Process

サンデングループは世界中のお客様に商品をタイムリーに提供することを基本に、現地調達、現地生産を実行しています。その際、生産過程で発生する環境負荷、ならびに生産拠点のある国・地域の環境基準を考慮した保全活動を展開し、地球温暖化防止、循環社会形成、水・有害化学物質の削減を重点に活動を行っています。

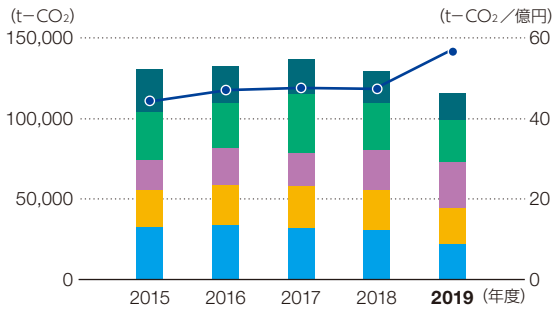
自動車空調システム事業工場で、最先端の未来型モノづくり工場を目指し、シームレス・モジュラー／一貫生産、倉庫管理(WMS)、製造実行(MES)、製品ライフサイクル管理(PLM)等々による効率化を実現しています。同時に工場からの排熱等の有効活用を目指した「創エネ活動」や、水溶性切削油が原因で起こる職場環境悪化の改善、スラッジ等の廃棄物削減活動も継続的に推進しています。

一方、旧式だった試験設備を新式に入れ替えることにより、さらなる消費電力削減も実現しています。

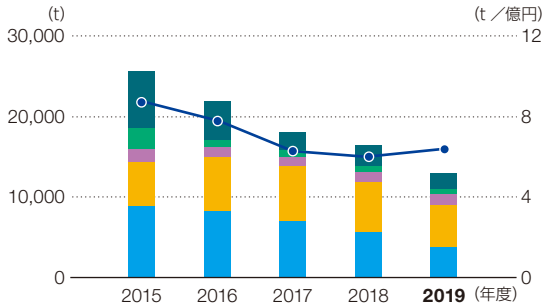
エネルギー使用量(地域別実績推移)



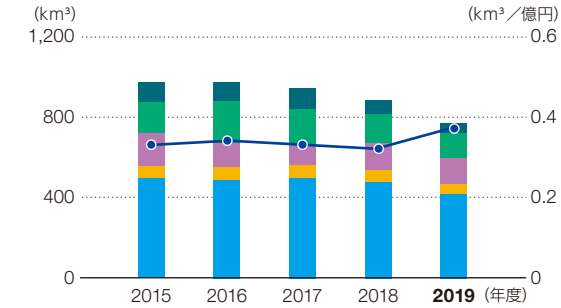
CO_2排出量(地域別実績推移)



廃棄物排出量(地域別実績推移)



水使用量(地域別実績推移)



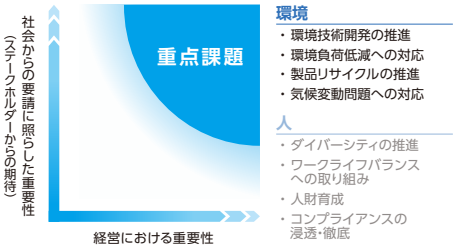
アメリカ　中国　アジア・大洋州　ヨーロッパ　日本　連結売上高原単位

Green Communication

1993年に策定した「環境憲章」、2014年に策定した「生物多様性方針」のもと、サンデングループ社員は、企業市民の一員として地域環境活動へ積極的に参加しています。工場内での清掃・緑化はもとより、拠点のあるエリアでの自主的な清掃活動や行政機関が行う行事へも参加し、地域社会の一員として積極的な活動を展開しています。

これからも、全ての人々から信頼される企業を目指し、地域およびグローバルのステークホルダーとのコミュニケーションを企画・推進していきます。

マテリアリティマップ



2019年度目標と実績

2018年度にスタートした「第4次中期環境基本方針」を基に、2019年度の環境活動結果をご報告します。

※評価の基準（自己評価）　A：達成　B：概ね達成　C：不十分

基本戦略	中期環境基本方針目標	2019年度環境目標	2019年度環境実績	評価
Green Management	環境コンプライアンスの順守 ●環境事故0件	ISO改訂版対応の完了	全拠点で2015年版に更新完了	A
		環境教育の実施／啓蒙	・SDGs、ESG等に関する社員マインド醸成の実施（社内報で展開） ・eco検定受験推奨によるエコピープル育成 2019年：19名合格　累計：2,470名	B
Green Technology	●新技術を用いた環境配慮製品の開発／上市 ●製品環境指標値を量産機全てで達成 （目標値は製品別に設定）	新規開発製品で製品環境指標0.9以下（対象機種比）	・カーエアコン用コンプレッサー：0.85 ・カーエアコン用新HVAC：0.65	B
		製品ライフサイクル環境負荷算出	・自動車機器の使用段階負荷算出式の確定（日本自動車部品工業会の実績）	B
		革新的な技術で環境配慮製品を開発する	・電気自動車用高効率ヒートポンプエアコン上市 ・電気自動車向け水加熱ヒーターの上市 ・電気自動車用Li-ionバッテリー温度管理システムの提供 ・新冷媒対応カーエアコン用コンプレッサー上市	A
Green Process	環境負荷低減 （CO_2排出、エネルギー量、廃棄物排出、取水、有害化学物質） ●売上高原単位 対前年度比3%削減 ●総量:前年度未満	CO_2排出 原単位：3%削減（2018年度比） 総量：2018年度未満	原単位：19%増加 総量：11%削減	B
		エネルギー量 原単位：3%削減（2018年度比） 総量：2018年度未満	原単位：16%増加 総量：13%削減	B
		廃棄物排出： 原単位：3%削減（2018年度比） 総量：2018年度未満	原単位：6%増加 総量：21%削減	B
		（国内事業所/関連会社） ゼロエミッション （再資源化率99%以上）の継続	継続中	A
		取水 原単位：3%削減（2018年度比） 総量：2018年度未満	原単位：16%増加 総量：13%削減	B
		（国内事業所） 有害化学物質排出量 原単位：3%削減（2018年度比） 総量：2018年度未満	原単位：17%削減 総量：38%削減	A
Green Communication	生物多様性活動のグローバル展開	環境保全活動への参画	・地域植林／清掃活動へ積極的に参加	A
	外部評価の獲得	外部アンケートの回答	・日経SDGs経営調査環境偏差値：56.1 ・CDP…気候変動：全体C、サプライヤーエンゲージメントB、水の安全:B-	C

サンデンとお客様

WEB お客様
https://www.sanden.co.jp/environment/csr_effort/customer.html

基本的な考え方

サンデングループは、社是に「顧客のためになるよい製品を作ります」を掲げています。これを原点として、企業理念においても、お客様に対する基本姿勢を、「技術開発とモノづくりを基本として、品質を第一に考え、常に世界中のお客様に満足される魅力のある製品、システム、サービスを提供します。」としています。常にお客様が求める新たな顧客価値を追求し、提供し続けるというお客様第一の精神を実践し、信頼に応えていきます。

品質管理

1994年に、独自の全社的マネジメント品質改革活動であるSTQM（Sanden Total Quality Management）活動をスタートさせ、世界トップクラスの経営品質を目指してきました。STQMとは、「個々のマネジメント品質、及び、結果品質を徹底的に向上させて、21世紀に繁栄する会社を創り上げるため、毎日、毎日の創造改革努力を積み重ねる行動である」と定義しています。2019年からは、この定義に基づいて、結果品質である「成果」にこだわり、マネジメント品質であるマネジメント手法・プロセスを徹底して高めた「光り物」とする意識をプラスして、事業会社の事業競争力のさらなる強化と、成果創出のマネジメント強化活動として「STQM+plus」活動を展開しています。

改善基盤の強化と継続

改善・改革活動は、サンデングループの企業理念を支える社員の行動の基本であり、企業活動にとって普遍的なものです。

「STQM+plus」活動では、それぞれの事業会社が従来の制約条件を見直し、活動内容の自由度・多様性を発揮した活動を継続しています。各事業会社が、それぞれ独自の成果大会を開催・運営するなど、改善基盤の強化も図っています。また、その中から選抜されたチームを社外の発表大会へ派遣し、他社事例からの刺激を受け、さらなる改善のレベルアップの機会としています。

■ **2019年度活動結果紹介：**

- QCサークル全国大会
  - ・ネオンテトラがでっかくなっちゃったサークル（サンデン・オートモーティブコンポーネント）
- QCサークル群馬地区チャンピオン大会
  - ・J-ハイブリッドサークル（サンデン・オートモーティブコンポーネント）
  - ・マジMAKUWサークル（サンデン・オートモーティブコンポーネント）
- QCサークル群馬地区　総合大会

春季　大会賞

・J-ハイブリッドサークル（サンデン・オートモーティブコンポーネント）

発表を行うAC EC開発部の社員

QCサークル全国大会神戸国際会議場の前にて

開発体制

グローバル４極開発体制（日本・欧州・北米・アジア／中国）のもと、開発・モノづくり活動を進めています。その中で、近年グローバルで多様に変化する市場や、お客様が求める価値をより確実に製品という形にするために、事業会社の開発部門（日本）が、お客様への新製品・新技術提案を軸とした、基本となる新技術開発を主体的かつ積極的に行っています。併せて、材料技術、信頼性技術および生産技術等、グローバルでの技術支援を幅広く展開するグローバル一体開発により、さらなる顧客価値の向上に努めています。

サンデンとお取引先様

WEB お取引先様
https://www.sanden.co.jp/environment/csr_effort/suppliers.html

基本的な考え方

サンデングループが取り組んでいるCSR推進活動をお取引先様にご理解いただくとともに、ビジネスにおけるリスク低減と機会創出の観点から、サプライチェーン全体での共創活動を推進します。また、グローバルに展開する当社グループの継続的発展には、競争力のある材料・部品が不可欠です。お取引先様とは、真のビジネスパートナーとして信頼関係の構築に努めます。

お取引先様との取り組み

① お取引様とのかかわり：サンデングループの購買は、単に「買う」だけでなく、競争力のある材料と部品を確実・効率的にグループ内の工場や世界のお客様に供給するという使命を持って行っています。また、お取引先様から競争力ある材料・部品を確実かつ効率的に供給していただくこともグループ発展には不可欠であるため、お取引先様とのパートナーシップをグローバルに築くよう努めています。

② サンデン取引先様基本原則：当社グループの取引先基本原則を、日本語、英語、中国語でWEBサイトに掲げています。

③ お取引様とのパートナーシップ向上：

- お取引先様訪問：強固な信頼関係構築を目的として、経営陣が国内外のお取引先様を訪問しています（2019年度計画10社、実績10社）。
- 協創関係構築：当社開発ニーズとお取引先様の得意技術・専門性とのマッチングのため、お取引先様懇談会を実施しています（2019年度計画5社、実績5社）。

④ CSR調達の展開：当社グループおよびお取引様は、国際社会や地域社会の一員として社会と調和した諸活動を展開し、企業の社会的責任を果たさなければならないと考えています。よって、CSR調達については取引先基本原則に基づいて行動し推進します。

- 人権・環境保全など企業の社会的責任への対応要求
- 関連法規・国際ルールの遵守など企業倫理への対応要求
- 安全衛生管理や、自然災害等に対する事業継続計画への対応要求
- マネジメントシステム（品質、環境、化学物質）等への対応要求

また、お取引先様が基本原則を順守していることを確認するため、お取引先様およびその調達先に立ち入り調査ができるものとしています。

サンデンと株主・投資家

WEB 株主・投資家
https://www.sanden.co.jp/environment/csr_effort/investor.html

基本的な考え方

当社グループは、株主や投資家の皆様に長期的にご支援いただくため、投資判断に有益な会社状況について、説明責任を遂行することが重要であると考え、積極的なコミュニケーションに努めています。また、以前より注力しているESGの観点からも、対話の充実を重視しています。

株主・投資家への取り組み

コーポレートガバナンス・コードの趣旨を踏まえ、株主・機関投資家の皆様とは、個別ミーティングやスモールミーティングを通じ、当社の経営戦略や中期経営計画ならびに活動状況の説明を行うと同時に、貴重なご意見を伺うなど、双方向のコミュニケーションに努め、信頼関係を構築してまいりました。また、海外の株主・機関投資家の皆様とも、電話会議の頻度を増やすことで、よりタイムリーなコミュニケーションを図ってまいりました。引き続き、株主・投資家の皆様の信頼と期待に応えるため、さらなるコミュニケーションの促進に努めてまいります。

サンデンと社員

WEB 社員
https://www.sanden.co.jp/environment/csr_effort/employee.html

基本的な考え方

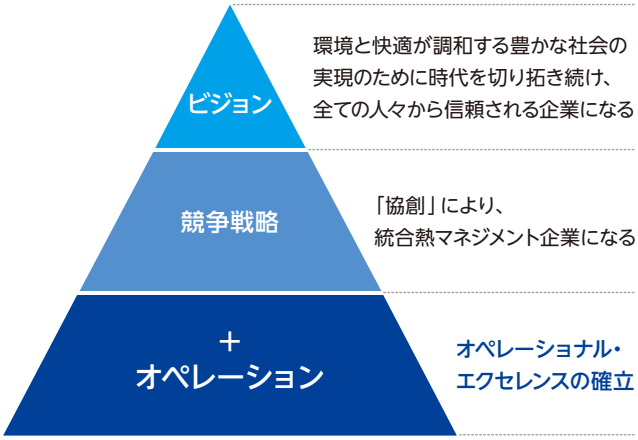
労働生産年齢人口の減少や、少子高齢化社会を見据え、社員一人ひとりが能力を十分に発揮し、いきいきと働けるよう、職場環境を整備することが、企業としての成長につながると考えています。また、社員の心身の健康保持と徹底した労働安全衛生の確保に努め、ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに注力しています。

オペレーショナル・エクセレンス

サンデングループは、オペレーションにより持続的な競争優位を実現している状態を「オペレーショナル・エクセレンス」と呼んでいます。その状態を実現するために、組織とオペレーションを担う現場で働く社員一人ひとりの力、すなわち、オペレーション力・現場力を高める活動を推進しております。

常により良い業務オペレーションを追求しようという考え方・文化が現場の末端まで浸透し、それにより実際に現場力(生産、企画、研究、開発、サプライチェーン、等企業を構成するあらゆる機能・業務)がそれぞれ競争上の優位まで高められている状態とするため、サンデングループでは次のような考え方の浸透・行動の徹底を進めています。

- 既成の枠組みにとらわれない
- 挑戦と改革
- 常に問題意識を持って解決しようとする
- 一人ひとりが問題意識を持ち自ら課題を発見・解決
- それぞれレベルや領域は違ってもプロフェッショナル
- 一人の天才ではなくプロの集まり
- 同じ志を持った仲間と共にチーム全体で取り組む　など



個人、部門レベルの両輪で上記の行動を意識・実践することで一人ひとりの社員、組織が成長し、会社の価値が向上します。

サンデングループでは、オペレーショナル・エクセレンス実現につながる全社活動の一つとして、より良い業務オペレーションの追求をテーマにした小集団活動を1989年から行っています。

人財育成

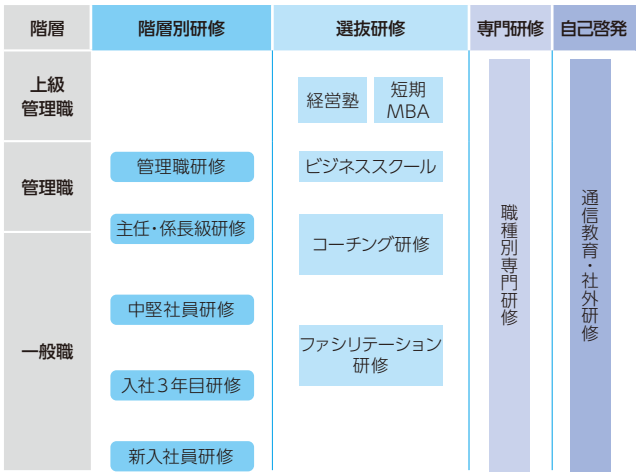
サンデングループは、企業は人なりの理念のもと、人財育成をグループ全体として取り組むべき経営課題として捉え、リーダーシップなどの「人間力」を原点に、マーケティングなどの「技術力」を兼ね備えたグローバルに活躍できる人財の育成を目指し、社員教育を行っています。

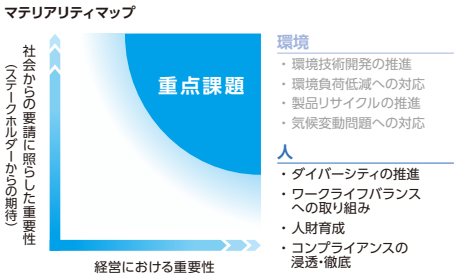
社員教育は、全社員を対象に職位に応じた知識やスキルを習得する階層別研修、将来の幹部候補を対象とした選抜研修、各部門で実施する専門研修および自己啓発の4つで構成されています。

社員は「リーダーシップ研修」を軸に、「企業理念」「ビジネススキル」「マネジメントスキル」等を各社内研修で学ぶとともに、短時間勤務制度を利用して自己啓発に取り組むことができます。

職種別専門研修では、29年の歴史を持つ社内技術人財育成(テクノスクール)で技術者の技術向上を図っています。

SDC 教育体系の全体図





ワークライフバランス

主な仕事と家庭との両立支援制度

1. 育児／介護休業制度
2. 育児／介護勤務制度（短時間勤務）
3. 看護休暇
4. キャリアカムバック制度
5. 育児サービス支援制度
6. 時間単位年次有給休暇制度
7. リフレッシュ休暇制度
8. リカレント休暇制度
9. テレワーク勤務制度
10. 自己啓発・ボランティア勤務制度
11. カフェテリアプラン

ダイバーシティ

ダイバーシティへの取り組み

変化するビジネス環境の中では、ダイバーシティを推進し、「多様な価値観を尊重して受け入れ、違いを積極的に活かす」ことが重要であると考えています。そのため、創業の精神「知を以て開き 和を以て豊に」に基づき、誰もがさらに活躍できるよう働きやすい環境整備を推進しています。

この取り組みは、企業理念の中の「あらゆる人の尊厳と基本的人権を尊重する精神に基づく企業文化を築きます」という基本原則を実践するため、多様な価値観から生まれる様々な「知」を結集し、「和」をもって成長につなげ、「誰もが輝く会社」を目指すために行っているものです。

安全衛生

サンデングループは、企業理念の中で「安全衛生」を基本原則の一つと位置付け、社員の安全と健康の確保に全社で取り組んでいます。2000年には「安全衛生憲章」を定め、理念と行動指針を明示することによって、安全で安心して働ける快適な職場環境づくりをグループ一丸となって推進しています。

2019年度は、「安全衛生憲章の実践」を全社方針として、労働災害ゼロ、新規メンタル疾患休業者ゼロを目標に、労働衛生マネジメントシステム（OHSAS）を基盤とする各拠点での主体的な活動を推進しました。

安全については、安全衛生教育体系に基づく安全衛生体系を再構築し、全社の階層別教育と各拠点での教育を実施しました。この結果、一人ひとりの安全意識の向上と管理監督者の安全衛生管理能力の強化が図られ、安全で健康な職場づくりが促進されました。

具体的には、生産事業所での「日常安全活動5項目」と「安全衛生5カ条」の徹底を図る一方、転倒災害防止を目的とした高年齢社員に対する安全衛生教育の導入など、新しい取り組みも行いました。

こうした活動の結果、労働災害は減少し、2019年度の労災度数率*は前年度の0.69から0.27へ大幅に低下しました。

衛生については、メンタルヘルスケアの促進、全社員対象の健康づくり活動、健康保険組合との協働、感染症対策と救命救急対応の徹底など、様々な活動を推進しました。

具体的には、メンタル不調の未然防止対策としてセルフケア教育を実施したほか、社内ポータルサイトを活用した健康情報の周知、健保組合との協働（コラボヘルス）による禁煙支援やメタボ対策、がん検診の推進などに取り組みました。

このような活動を通じ、サンデンホールディングスおよび事業会社は、「健康経営優良法人大規模法人部門」（経済産業省認定）に2018年から3年連続で認定されました。

*労災度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

サンデンと地域社会

WEB 社会貢献活動
https://www.sanden.co.jp/environment/activity.html

基本的な考え方

持続可能な地域社会実現のため、サンデングループは、様々な活動を通じて地域社会と深くかかわり、企業市民としての役割を果たしています。

地域／社会貢献活動

2019年4月　ドイツ

国を越えた支援活動を展開

ケニアのヴィクトリア湖近くにある孤児院「Dala Mar Gengo」には、両親を失った70名の少年たちが住んでいます。Sanden International (Europe) GmbHの社員は特別休暇を利用してこの孤児院を訪問し、子供たちへの食糧配給を行ったり、聖書の教育やゲームを通した様々な楽しいレッスンを行ったりしました。

2019年9月　タイ

地域の農業活動に貢献

タイで7月から9月に収穫されるロンゴンという果物は、9月のピーク期に農家が販売先に困っていたため、Sanden Thailand Co., Ltd.は直接農家から購入し、社員に配ることでタイ農家に協力しました。

2019年12月　メキシコ

子供たちへのクリスマスプレゼント

Sanden Manufacturing Mexico SA de CV(SMM)にてNAVIDAR(クリスマス) キャンペーンを開催しました。SMMの社員は、おもちゃやお菓子、食料品などを、難民を保護している施設「El Buen Pastor」へ寄付しました。

2020年1月　ポーランド

日本の文化を伝える活動も

Sanden Manufacturing Poland sp.zo.oは、日本の梅の木から作った手彫りのこけし人形を公益機関であるグレートオーケストラに寄付しました。

こけし人形はグレートオーケストラのインターネットオークションで販売され、売上高はグレートオーケストラが医療機器を購入する資金となりました。

great orchestra of christmas charity

社会活動の目標と実績

WEB 2019年度社会活動目標と実績
https://www.sanden.co.jp/environment/csr_effort/activity.html

※評価の基準（自己評価）　A：達成　B：概ね達成　C：不十分

対象項目		2019年度目標	2019年度実績	評価	2020年度目標
お客様	品質管理	①国際自動車産業特別委員会（IATF）およびVDA始め各顧客固有要求事項（CSR）を品質マネジメントシステムに取り込み、結果品質のみならず開発から生産に至るまでのプロセス品質を管理することにより、顧客満足と安心・安全を提供する	①設計・生産のプロセスをグローバルで一元的に管理するPLM（Product Lifecycle Management）システムの導入を進める。これまで世界各地の拠点ごとに管理していたCADデータや部品表等のデータをPLMで集約して管理することで、プロセスの全社標準化、設計工数の削減、在庫管理の適正化や調達コストの削減などの実現を目指す	B	①PLMシステムを導入し、国内拠点にて本稼働させる。さらに順次海外拠点に展開を進めることにより、顧客満足と安心・安全を提供する
		②海外現法開発案件における製品認定の実施、運用およびグローバル工程監査の継続運用	②海外現法開発案件における製品認定の実施、運用およびグローバル公務監査を運用	A	②海外現法開発案件における製品認定の実施、運用およびグローバル公務監査を継続運用
	サービス	次世代環境商品開発に向けた顧客ニーズ取得	日本、中国、インドで実施	A	次世代環境商品開発に向けた顧客ニーズ取得
社員	人財育成	①階層別研修の実施 ②選抜研修の実施	①階層別研修（全4階層） 新入社員研修：90名（受講率100%）　入社3年目研修：41名（受講率100%） 新任管理職研修：35名（受講率92%） ②選抜研修 講師養成研修：中止	A	①階層別研修の実施 ②選抜研修の実施
	ダイバーシティ	障がい者雇用率：2.8% 障がい者ケアの充実として、ジョブコーチ支援を開始予定	①障がい者雇用率：3.61% ②ジョブコーチ支援開始	A	障がい者雇用率：2.8%
		①女性管理職数を2014年時点に対し、2030年に5倍 ②新卒・キャリアの女性採用を強化する ③リーダー人財の育成強化を実施 ④生産性を高める働き方を整備（サンデンホールディングス㈱目標） ※2019年度より各社策定	①女性管理職：15名 ②新卒採用比率：18% ③階層別教育・リーダー教育強化 ④育児勤務の対象を小学6年生に延長、取得回数も無制限とすることで柔軟な働き方の拡大を実施	A	①女性管理職数を2014年時点に対し、2030年に5倍 ②新卒・キャリアの女性採用を強化する ③リーダー人財の育成強化を実施 ④生産性を高める働き方を整備（サンデンホールディングス㈱目標） ※2019年度より各社策定
	安全衛生／ワークライフバランス	【安全】 企業理念・安全衛生憲章に基づく安全衛生活動による労働災害ゼロ	労働衛生マネジメントシステム（OHSAS）を基盤とした各拠点での主体的な活動推進 安全衛生教育体系に基づく安全衛生体系を再構築し、全社の階層別教育および各拠点での教育を実施 定年時、再雇用の高年齢社員に対して、身体機能測定を含めた安全衛生教育を導入	A	【安全】 企業理念・安全衛生憲章に基づく安全衛生活動による労働災害ゼロ
		【衛生】 休職ゼロを目標としてメンタルヘルス対策および生活習慣病予防に取り組む 1.メンタルヘルス対策 ①セルフケア教育の強化（新入社員、入社3年目） ②職場環境改善の推進 2.生活習慣病予防対策 ①健康保険組合との連携による、特定保健指導実施率向上 ②データヘルス計画に基づく活動の展開 3.感染症対策の強化	1.メンタルヘルス対策 新入社員、入社3年目、新任管理職教育を対象にセルフケア教育を実施（受講者220名） ストレスチェックの集団分析結果に基づく職場環境改善を実施 2.生活習慣病予防対策 内臓脂肪・体組成測定会を開催 保健師による個別相談会、ハイキング、ラリー式の歩数イベント等の健康づくり活動を実施 健康保険組合との協働で禁煙支援「スワンスクール」やマイHealthウェブを活用したウォーキングイベントを実施 3.感染症対策の強化 定期健康診断に風疹抗体検査を導入	A	【衛生】 休職ゼロを目標としてメンタルヘルス対策および生活習慣病予防に取り組む 【セルフケア・ラインケア強化】 【長時間労働対策】
株主・投資家	コミュニケーション	①モザイク情報等を含む積極的な情報開示の展開 ②グローバルでのステークホルダーコミュニケーションの強化	①中期経営計画や年度計画を通じた経営戦略の説明、およびその理解を深めるための過去情報を中心とした金額・数量等の定量情報に加え、市場環境等の定性情報を含めた多面的な分析結果の積極的な情報提供 ②決算説明資料の日英版の適宜開示および海外株主・機関投資家様との電話会議の頻度を増やすことでタイムリーな情報提供を実施	A	①ESG情報や各種経営情報のディスクロージャー内容の充実 ②オンライン説明会やビデオ会議の活用等を通じた多様なコミュニケーション機会の創出
地域社会	地域貢献活動	グローバル全拠点において地域と連携を図った社会貢献のさらなる推進 ①教育支援 ②災害復興支援 ③社会福祉支援 ④環境保全 ⑤スポーツ振興	①ケニアの孤児院「Dala Mar Gengo」を訪問、聖書教育やゲームを通じたレッスンを実施 ②ノートルダム大聖堂再建、C.W.ニコル・アファンの森財団の震災復興プロジェクト「森の学校プロジェクト」へ寄付 ③白血病と闘う子供たちの協会「フェルナンドモレノ」と協力し、こどもの日に60袋のキャンディーを寄付 ④ポーランドの環境キャンペーン「Clean Up the World」の清掃活動に参加 ⑤福島県南相馬市にて、アスリート育成事業をデンソーテン レッドフェニックスとともに実施し、地元の男女中学生48名が参加	A	グローバル全拠点において地域と連携を図った社会貢献のさらなる推進 ①教育支援 ②災害復興支援 ③社会福祉支援 ④環境保全 ⑤スポーツ振興
お取引先様	CSR調達展開コミュニケーション	①BCP対応マニュアルの実施徹底による部品供給遅延防止 ②コアサプライヤーとの事業懇談会によるコミュニケーション強化 ③事業会社ごとにコアサプライヤー向け方針説明会を実施し関係を強化 ④サプライチェーンにおける環境活動取り組み継続（CO_2排出量管理） ⑤在庫低減と投資抑制によるキャッシュフロー改善	①BCP対応マニュアルを実施徹底し部品供給の遅延防止 ②コアサプライヤーとの事業懇談会を実施しコミュニケーションを強化 ③事業会社ごとにコアサプライヤー向け方針説明会を実施し関係を強化 ④サプライチェーンにおける環境活動取り組みを継続 ⑤在庫低減と投資抑制によりキャッシュフローを改善	B	①BCP対応マニュアルの実施徹底による部品供給遅延防止 ②コアサプライヤーとの事業懇談会によるコミュニケーション強化 ③事業会社ごとにコアサプライヤー向け方針説明会を実施し関係を強化 ④サプライチェーンにおける環境活動取り組み継続（CO_2排出量管理） ⑤在庫低減と投資抑制によるキャッシュフロー改善

コーポレート・ガバナンス

WEB コーポレート・ガバナンス
https://www.sanden.co.jp/ir/management/governance.html

基本的な考え方

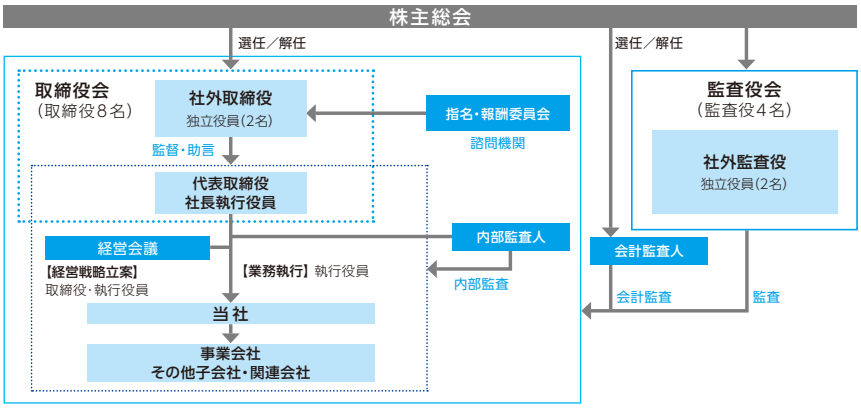
当社グループにおいては、1943年の創立以来、創業の精神である「知を以て開き 和を以て豊に」が、企業文化として脈々と受け継がれています。また、2003年に制定した「国際社会の中で共感する普遍の価値観」および「ステークホルダーに対する基本姿勢」で構成される「企業理念」は、当社グループ全体に浸透しており、この「企業理念」のもと、経営の公正性、透明性、効率性等の経営品質を向上させるという観点からコーポレート・ガバナンスの充実を図ってまいりました。

当社グループは目指すべき姿である「環境と快適が調和する豊かな社会の実現のために、時代を切り拓き続け、全ての人々から信頼される企業になる」を掲げ、この実現を目指し、中期経営計画を着実にやり遂げ、新たな企業価値を創造してまいります。

コーポレート・ガバナンスの取り組み

当社は監査役設置会社であり、取締役会、監査役・監査役会、会計監査人を設置しています。

取締役会を構成する取締役の人数は8名であり、そのうち2名を社外取締役としています。この体制により、経営者の説明責任を担保するとともに、監督機能の強化およびガバナンスの客観性の確保を図っています。監査役の人数は4名であり、そのうち2名が社外監査役です。



コンプライアンス

WEB コンプライアンス
https://www.sanden.co.jp/environment/management/compliance.html

基本的な考え方

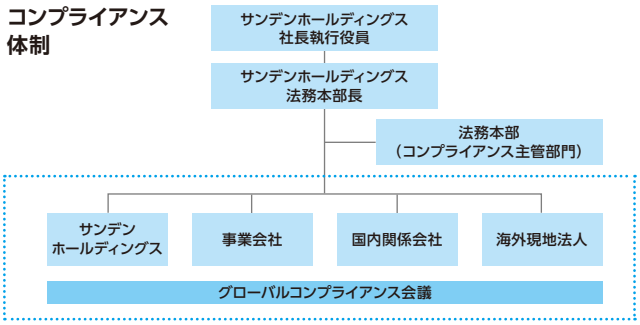
企業のガバナンスやコンプライアンスに対する関心は、日々高まりつつあります。サンデングループは、グループの行動の原点を示す「企業理念」において、コンプライアンスは日常業務における基本行動であると定め、その前文で法令、国際ルールの順守を定めるとともに、「高い倫理観のもと、誠実でフェアな企業活動を行う」ことを基本原則としています。

当社グループにおいてコンプライアンスは経営の最重要課題の一つであり、全ての事業活動がコンプライアンスを基本として行われるよう、様々な取り組みを進めています。

コンプライアンスへの取り組み

2020年度のグローバル方針として「グローバルコンプライアンス体制の確立」を掲げ、グローバル年間計画および、これに基づく各社の年間計画を策定しました。年間計画の主な内容として、引き続き独占禁止法順守のための活動に取り組むほか、贈収賄防止、営業秘密保護、知的財産権保護の強化をグローバルで進めていきます。

コンプライアンス体制



第三者意見

サンデングループのESG経営の取り組みは、冒頭のトップメッセージのなかでも紹介されているように経営理念の体系と関連づけながら進められており、事業活動と連携していることが明確に示されています。また、重点課題として掲げられている「環境」「人」と連動して、個別の取り組みに加え2019年度の目的や実績が報告されており、全体としてバランスの良い報告書になっています。さらに、事業活動の軸となる「統合熱マネジメントシステム」の取り組みや、外部組織との「協創による技術開発」をSDGsの各ゴールと結び付けられていることは、広い社会動向との関係をステークホルダーに発信していくうえでとても効果的な方法であると言えます。サンデングループが事業活動を通じて社会へ貢献していくという強いメッセージが読み取れました。

「環境」はサンデングループのCSR活動の重点課題の一つであり、これまでも長期にわたり活動を展開してこられました。その継続性の社会からの評価の一端が、SEGESによるサンデンフォレストの「緑の殿堂」としての認定にあると思います。新型コロナウイルスの影響で日本社会や多くの産業が経済的に厳しい時期を迎えていますが、SDGsの枠組みが15年で設定されているように、サステナビリティへの取り組みは経済状況が良い時期も厳しい時期も乗り越えながら継続していくことが求められます。サンデンフォレストの継続の精神は、これらを象徴するとても素晴らしい取り組みであり、社会からの評価にもつながっていると思います。

重点課題のもう一つの柱である「人」の側面について、コロナ時代を生き抜くうえでより一層、従業員との関係性が重要になってきます。サンデングループでは早くから健康経営に積極的に取り組んでおり、今年度も健康経営優良法人の認定を受けておられます。障がい者雇用率は昨年よりも上昇し、また育児勤務制度の充実も図られ、より高いレベルでの活動に努められています。ウィズ・コロナ社会においてテレワークを含む柔軟な働き方が浸透したことで、今後はより多様な人材に活躍のチャンスが広がっていくことが期待されています。サンデングループにおいても、多様な人材が活躍できる環境づくりを今後も継続されていくことが期待されます。

堅実に活動を展開されてきているサンデングループのCSR活動について、今後の課題の一つは、投資家とのコミュニケーションの拡充にあるかもしれません。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会の混乱発生以降も、ヨーロッパやアメリカを中心にESG関連の投資が一層活発になっております。機関投資家だけでなく、個人投資家を対象としたファンドも増加傾向にあり、投資の裾野も世界中で広がっています。事業活動の軸となる統合熱マネジメントシステムをはじめ、サンデングループのESGへの貢献のポテンシャルはとても大きいため、より一層の戦略的なコミュニケーションが期待されます。

北田 皓嗣(きただ ひろつぐ)

法政大学経営学部准教授。神戸大学経営学研究科博士後期課程修了。博士(経営学)。日本MFCAフォーラム運営委員。ISO/TC323(サーキュラーエコノミー)国内対応委員。会計学を専門とし、環境管理会計の普及と浸透に関する研究を重ね、サステナビリティ経営に関するテーマにも活動の幅を広げている。主著に『創発型責任経営』(日本経済新聞出版社)など。

第三者意見を受けて

昨年のCSRレポートに続いて、サステナビリティ経営のテーマにも活動の幅を広げられている法政大学北田皓嗣先生に、第三者意見をお願いしました。貴重なご意見とご提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

当社は昨年、2023年を最終年度とする新中期経営計画「SCOPE 2023」を策定し、事業を通じたSDGsへの貢献を明示しましたが、サステナビリティ社会への貢献について関係性への整理を評価いただきました。まだまだ活動や目標の具体性には不足のところもあり、今後の大きな課題と捉えています。

継続して取り組んでまいりました重点課題「環境」と「人」に対する活動についても、高い評価をいただきましたことは、これから成長が期待できる電気自動車向けの「統合熱マネジメント」を提供する企業を目指し、新しいビジョンである「人々の生活を豊かにする『快適な空間』と『環境』との調和を実現して社会に貢献」することに向けた活動に進化させることができると思います。SDGsへの貢献を経営戦略に組み込み、社会課題の解決と事業活動を戦略的に関連付け、具体的な活動としてCSR活動を推進することで、ステークホルダーの皆様から期待・信頼される企業の実現を目指してまいります。

執行役員　総務本部長

橋本 善夫

サンデンホールディングス株式会社
https://www.sanden.co.jp/

本報告書に関するお問い合わせ

総務本部 広報・CSR部
〒101-8583　東京都千代田区外神田1丁目18番13号 秋葉原ダイビル
TEL：(03) 5209-3231

この冊子の制作には、国産木材が製紙原料として活用されています。国産材を積極的に活用することで、日本の森林が整備され、CO_2の吸収量拡大に貢献します。